

令和4年度福岡県在宅医療充実強化支援事業 情報交換会について

令和5年3月20日

1) 在宅療養支援診療所等調査結果のまとめ

- ・在支診・在支病・在医総管医療機関数 最多が朝倉 最少が筑紫
- ・医師数は概ね横ばい（最多が八女筑後、最小が田川）
- ・60歳以上内訳: 診療所 43% 病院 33%
- ・患者数は県第7次保険医療計画目標値を上回った
- ・最多が福岡糸島、最小が京築 その差は2.9倍
県平均を上回った圏域は3/13
- ・訪問診療患者数（自宅・自宅以外）いずれも増加
- ・19歳以下の訪問診療患者 64%が福岡糸島
- ・医療的ケア児の受け入れ問題 人員確保・技術面など
- ・在宅医療全体の課題： 『人員不足』『医療機関・他職種連携』
『情報共有システムの整備』

2) 福岡県における在宅医療(訪問診療)の現況と今後に向けて

- ・在宅医療は二次医療圏にこだわらず地域の状況に応じて弾力的に
- ・在宅医療では『積極的役割を担う医療機関』『必要な連携を担う拠点』の役割を整理し計画に位置付ける
- ・『拠点』と『医療介護連携推進事業』の関係性を明らかにし連携する

3) 小児等地域療育支援病院運営及び整備事業

- ・NICUと在宅との中間医療施設として『小児等地域療育支援病院』を整備

まとめ

- ・ 第 7 次医療計画では福岡県での在宅医療は概ね指針通り
- ・ 地域によっては二次医療圏を超えて訪問診療が多く行われている
- ・ 在宅の看取りが予想以上に増えている
- ・ 令和 6 年度より働き方改革本施行となり特に救急医療の供給が減る予測（在宅医療にも影響が出る）
- ・ 令和 5 年以降小児在宅医療の重要性が大きくなる